

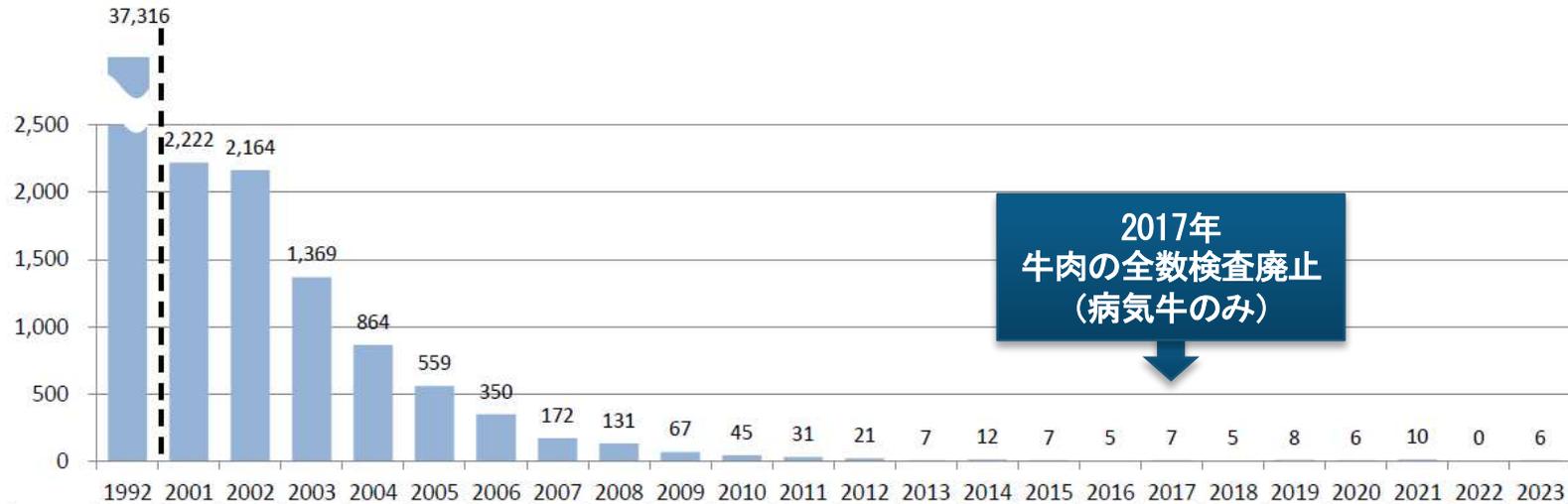
vCJDに関する採血制限の見直しについて

関西医科大学医学部
微生物学講座
大隈 和

世界のBSE発生件数の推移

発生のピークは1992年。BSE対策の進展により、発生頭数は大きく減少

令和5年6月29日時点



	1992	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
合計	37,316	2,222 (2/0)	2,164 (3/5)	1,369 (4/5)	864 (3/4)	559 (4/4)	350 (5/5)	172 (5/9)	131 (5/6)	67 (6/5)	45 (3/5)	31 (4/3)	21 (3/7)	7 (4/1)	12 (3/6)	7 (3/1)	5 (4/0)	7 (2/5)	5 (2/2)	8 (7/1)	6 (3/3)	10 (5/4)	0 (0/0)	6 (3/3)	190,696 (83/84)
欧州 (英国を除く)	36	1,016 (2/0)	1,038 (3/5)	753 (4/4)	528 (3/4)	342 (2/3)	205 (3/3)	101 (3/6)	84 (5/4)	54 (5/5)	33 (3/4)	22 (3/2)	16 (2/5)	4 (3/1)	10 (2/6)	4 (2/1)	5 (4/0)	6 (2/4)	3 (1/2)	7 (6/1)	6 (3/3)	6 (2/4)	0 (0/0)	3 (1/2)	6,028 (64/69)
英国	37,280	1,203	1,123	610	330	208 (1/1)	129 (0/1)	65 (2/2)	42 (0/2)	11 (1/0)	11 (0/1)	8 (1/1)	3 (0/1)	3 (1/0)	1	2 (1/0)	0	0	1	0	0	1	0	1	184,597 (8/9)
米国	0	0	0	0	0	1 (1/0)	1 (1/0)	0	0	0	0	0	1 (0/1)	0	0	0	0	1 (0/1)	1 (1/0)	0	0	0	0	1	6 (3/3)
ブラジル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1/0)	0	1 (1/0)	0	0	0	0	1	0	2	0	1	6
カナダ	0	0	0	2 ※1	1	1	5 (1/0)	3 (0/1)	4	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1 (1/0)	0	0	22 ※2
イスラエル	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
日本	0	3	2	4 (0/1)	5	7	10 (0/1)	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36 (0/2)

OIE情報、EFSAレポート等をもとに動物衛生課でとりまとめ（2022年9月21日時点）

表中上段は発生総数（定型及び非定型）、下段は非定型BSEの発生数（H型/L型）。

※3 2015年以降に発生した定型BSE：アイルランド（2015年）、フランス（2016年）、英国（2015年、2018年、2021年）、カナダ（2015年）

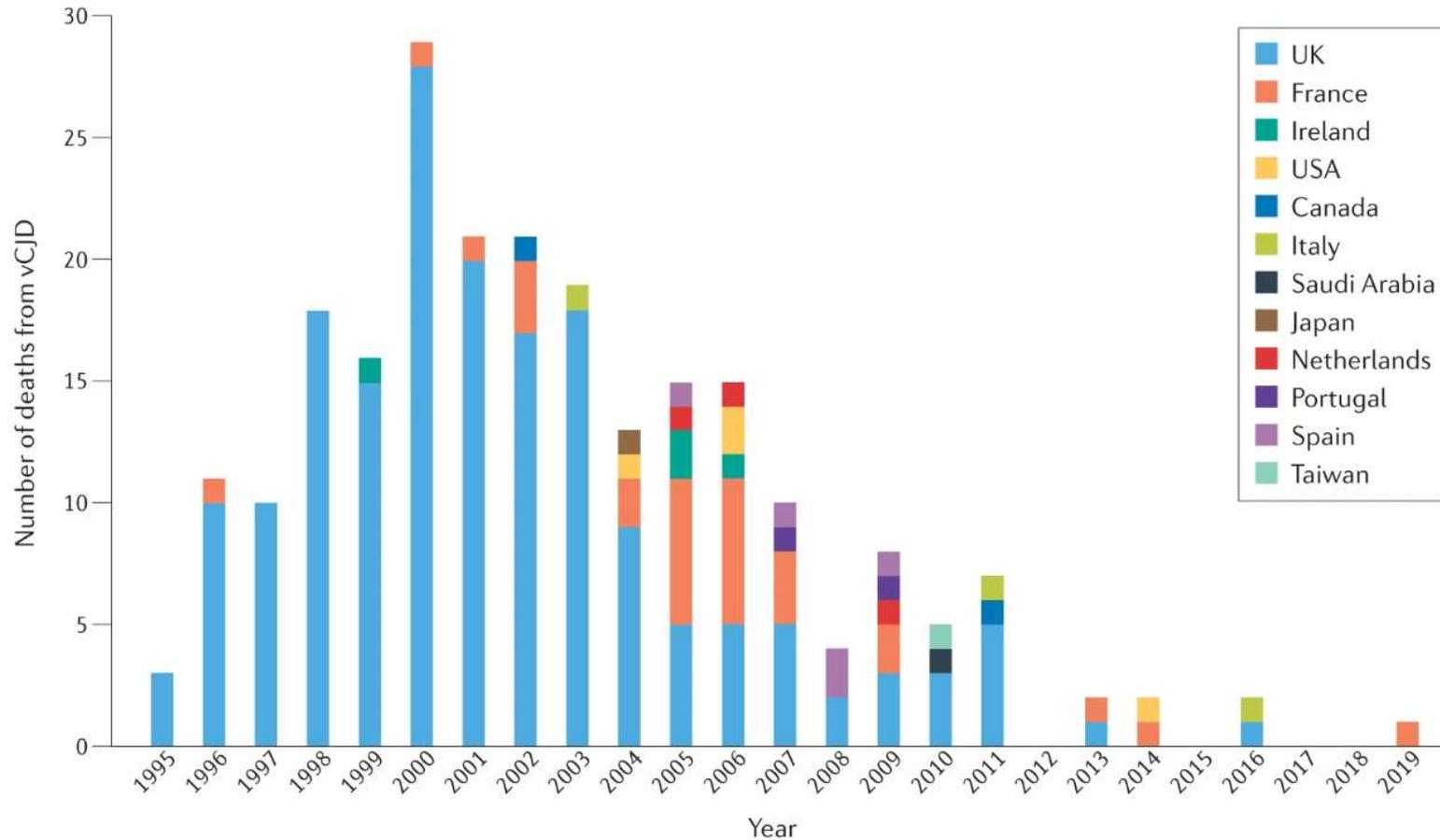
※1 うち1頭は米国で確認されたもの。

※2 カナダの累計数は、輸入牛による発生を1頭、米国での最初の確認事例（2003年12月）1頭を含んでいる。

農林水産省データ

世界のvCJD発生数の推移

From: [The importance of ongoing international surveillance for Creutzfeldt-Jakob disease](#)



Graph shows the annual number of deaths from variant Creutzfeldt-Jakob disease (vCJD) in the 12 countries or territories for which data is available. Data obtained from the [European Creutzfeldt-Jakob Disease Surveillance Network \(EuroCJD\)](#).

2023年現在の諸外国の基準

実施国	献血受入基準承認機関	対象国	滞在期間	滞在時期	
アメリカ	食品医薬局 (FDA)	地理的なvCJD感染リスク (滞在歴) に基づく献血制限廃止 (2022年5月)			
カナダ	カナダ保健省 (Health Canada)	英国	通算3ヶ月以上 (CBS・HQ*)	1980年～1996年	
		フランス	通算5年以上 (CBS)	1980年～2001年	
			通算3か月以上 (HQ)	1980年～1996年	
		アイルランド	通算5年以上 (CBS・HQ)	1980年～2001年 (CBS) 1980年～2007年 (HQ)	
		サウジアラビア	滞在歴による献血制限廃止 (CBS) (2022年2月)		
			通算6か月以上 (HQ)	1980年～1996年	
西欧	滞在歴による献血制限廃止 (CBS) (2022年2月)				
	通算5年以上 (HQ)	1980年～2007年			
フランス	雇用連帯省 (保健人道活動担当省)	英国	通算1年以上	1980年～1996年	
ドイツ	ポール・エーリッヒ研究所	英国	通算6か月以上	1980年～1996年	
イタリア	保健衛生省	英国	通算6ヶ月以上	1980年～1996年	
豪州	薬品・医薬品行政局 (TGA)	英国滞在歴による献血制限廃止 (2022年7月)			

日本における欧州等滞在歴を有する者からの献血制限 (H22. 1. 27以降)

		滞 在 国	滞在期間	滞在時期
A*)	①	英国	通算 31 日以上 (96 年まで) 通算 6 ヶ月以上 (97 年から)	1980 年～ 2004 年
	②	アイルランド、イタリア、オランダ、スペイン、ドイツ、フランス、ベルギー、ポルトガル、サウジアラビア		
	③	スイス		1980 年～
B*)	①	オーストリア、ギリシャ、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ルクセンブルク	通算 5 年以上	1980 年～ 2004 年
	②	アイスランド、アルバニア、アンドラ、クロアチア、コソボ、サンマリノ、スロバキア、スロベニア、セルビア、チェコ、バチカン、ハンガリー、ブルガリア、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、北マケドニア、マルタ、モナコ、ノルウェー、モンテネグロ、リヒテンシュタイン、ルーマニア		1980 年～

※) Bに掲げる国の滞在歴を計算する際には、Aに掲げる国の滞在歴を加算するものとします。

変異型Creutzfeldt-Jakob Disease (vCJD)について

1. ヒトプリオンタンパク質には多型性（129番がメチオニン(M)又はバリニン(V)）がある。英国で発症が確認されたvCJD患者は、1名（MV型）を除いて全てMM型であり、孤発性CJD患者もMM型が多い。そのため、**MM型はプリオン病に高感受性**があると考えられている。（英国人のMM型の比率は42%、MV型は47%であり、**日本人のMM型の比率は90%以上**）なお、献血後にvCJDを発症した献血者からの血液が輸血された患者は発症しなかったが他病死したため剖検したところ、脾臓から異常プリオンが検出され、MV型であった。
2. **BSE発生頭数は1992年にピーク**となり、**vCJD発症者は2000年にピーク**となったことから**潜伏期は8年程度**と推定されている。Kuruでは暴露から50年たっても発症例がある。

- 日本は**国内感染でのvCJD発症例はない**ことから、**主たるリスクは流行国での滞在歴**である。
- 輸血によるvCJD感染リスクは、主たる発生国の英国において詳細に検討されており、英国においても輸血によるvCJD感染は2006年、輸血以外のvCJD発症は2016年を最後に確認されていない。**当初の予測よりも輸血による感染のリスクが非常に低いことが判明**し、英国では輸血感染リスク低減策のうち国内採血の血漿製剤の小児等への利用制限および血漿分画製剤の原料血漿の利用制限を撤廃した。
- **米国**は英国のリスク評価に基づき、また、**オーストラリア**は独自のリスク評価に基づき、**欧州渡航歴による献血制限を2022年に撤廃**した。
- 日本は2009年の国の通知でvCJD関連の献血制限が決定されて以降、一度も見直しされていない。